

た。これからも、総研大生、分子研研究員、そしておかしん先端科学奨学生として分子科学の発展に貢献できるような研究を続け、研究成果を岡崎の地から世界へ次々に発信できるよう精進していく所存でございます。

実は、応募するまで岡崎については分子研のことしか知らず、岡崎信用金庫が日本で第3位の規模を誇る“メガ信金”であることを後ほど知りました。岡崎のことを全くわかっていないと痛感し、最近は岡崎の活動にできるだけ参加することにしています。そこで、大学生のときに打楽器を演奏した

経験があったので、市民オーケストラである岡崎フィルハーモニー管弦楽団に入団し、月に2回程度、岩津にある公民館で練習しています。毎年2回演奏会を主催しており、今回は2014年1月19日（日）の予定です（会場はお隣幸田町の町民会館です）。研究生活の羽休めにクラシック音楽を楽しんでみるのはいかがでしょうか。また、岡崎や分子研の良さを知っていただくために、昨年度から研究室のメンバーと一緒に研究室Twitter、そしてfacebookページの運営を始めました。オープンキャンパスに来た学生から「Twitterやっ

ています。いつもつぶやきを見ています！」と聞いたときは、学生とのつながりを実感することができ、嬉しく思いました。今年の4月末に、中村敏和先生が中心となって分子科学研究所のfacebookページを立ち上げられ、私も僭越ながらページの管理人として参加しております。日々のプレスリリースをはじめ、分子研の近況について掲載しています。

最後になりましたが、岡崎信用金庫、大学院系の皆様にご場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

## E V E N T R E P O R T

### 教員報告 平成25年度前期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程2年 岡部 佑紀

2013年度の学生セミナーは4月8、9日の二日間にわたって行われた。この期間中の葉山は風こそ強かったものの晴天に恵まれ、富士山と相模湾が映える絶好のセミナー日和となった。入学式後、休憩も無いままいきなり連れ出され、会場へと案内された新入生達だったが、セッションが進むにつれ学

生間でだいぶ打ち解けていったようだった。それぞれのセッションは、直前の綿密なりハーサルのおかげで思いの外すんなりと進んでいたと思う。特に「1円玉を様々な視点から捉え、その価値観を共有することで他専攻を知る意味について考える」というコンセプトの1円玉ワークショップでは、新

さらに活気づき、良い雰囲気を保つ事ができたため、新入生やセミナー委員にとっても非常に濃密で意味のある時間を過ごす事ができたと思う。1年間という非常に長い準備期間をこの2日間に詰め込み、無我夢中のまま過ぎてしまった学生セミナーだったが、無事に成功で終わる事ができた。最後になりましたが、各基盤機関に籠っていただけなかった仲間達との貴重な経験を与えてくださった学融合推進センターの岩瀬先生、奥本先生をはじめ、学生セミナーに携わった全ての方々に御礼申し上げます。

入生同士でしっかりと議論が交わせるかという不安要素があった。しかし私たちの心配をよそに、本番では予想外の盛り上がりを見せ、良い意味で私たちの期待を裏切ってくれた。また、総研大の各専攻の先生方に参加して頂くことで会場が



1円玉ワークショップの様子

Yuki Okabe

東海大学理学部化学科を卒業後、平成24年に総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻へ入学。協奏分子システム研究センター櫻井グループにて、バッキーボウルを用いた材料科学への展開に取り組んでいる。



## 担当教員 オープンキャンパス2013

2013年度担当教員 極端紫外光研究施設 准教授 木村 真一

2013年6月1日(土)に分子研オープンキャンパスを分子科学研究所において開催した。オープンキャンパスの参加者構成は、北海道から沖縄まで、学部学生15名、大学院生29名、ポストドク以上の大学関係者3名、教員・民間等3名であり、合計50名(このほか分子研シンポのみの参加者が4名)で昨年度より若干減少した。当日は12:45より岡崎コンフェレンスセンター中会議室で、著者、横山教授、青野教授、大峯所長の順番でオープンキャンパス、総研大、共同利用、および分子研の説明を行い、明大寺・山手の両地区を14:00から17:00まで各グループの実験室や研究室を自由に

見学してもらった。幸い雨もふらず、天気には恵まれた一日であった。アンケートの回収率は昨年より良く37%であった。参加情報の入手先は先生からの紹介54%、ポスター19%、ホームページ23%となっており、例年と同じく大学におけるOB等の分子研に縁のある先生方に支えられた形で成立していることを表していると思われる。実際、分子研OB・OGの教授が指導学生を引き連れて見学していたのは印象的であった。また、大学共同利用機関のこと

を知っているのは50%と低かった一方で、総研大をよく知っていたのは昨年度の11%から30%へとジャンプアップしており、徐々にではあるが知名度が向上していると感じた。最後に、今回のオープンキャンパスの開催にあたりご協力頂いた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



## 担当教員 分子研シンポジウム2013

2013年度担当教員 分子制御レーザー開発研究センター 准教授 平等拓範

分子研シンポジウムが平成25年5月31日(金)午後から6月1日(土)午前にかけて岡崎コンファレンスセンター中会議室で開催されました。このシンポジウムは土曜日のオープンキャンパスに連動する企画として、平成19年から始まり今年が7回目になります。所内4研究領域から推薦を受け、分子研に縁のある7名の先生方に講演をお願いしました。お話をいただいた講師と講演題目は以下のとおりです(講演順に記載)。

**森田 明弘**(東北大学)「分子シミュレーションによる溶液界面化学の新展開」

**伊藤 肇**(北海道大学)「金イソシアニド錯体の結晶構造と発光特性:分子ドミノ」

**小江 誠司**(九州大学)「水素からの電子抽出」

**奥村 剛**(お茶の水女子大学)「レーザー多次元分光理論から印象派物理学への道」

**菱川 明栄**(名古屋大学)「数サイクル強レーザーパルスによる超高速反応イメージング」

**西原 康師**(岡山大学)「クロスカップリング反応を用いるフェナセン型分子の合成と物性」

**松井 敏高**(東北大学)「ヘム代謝の多様な戦略」

全国の修士課程の学生を主な対象として、各講演者の研究分野の紹介から、最新の研究の様子、さらには将来展望などをお話いただきました。参加登録者は所外54名で、所内参加者や当日に所外から来た人たちを含めると70名の聴衆が集まりました。所外の参加登録者の内訳は、学部生16名、修士課程29名、博士課程1名、大学の職員4名、その他4名でした。総研大への進学や共同研究の提案・申請を促すことを意図して、各講師の先生に

は分子研との関わりや接点について触れて頂きました。総研大や分子研で若く多感な時期を過ごされたお話しなど、各講師のお話には随所で分子研や総研大への愛着が感じ取られ、我々にとっても大いに励まされるものでした。また、高度な研究内容を分かり易く講義され、参加学生からは積極的な質問もありました。また初日の夕方には、所内外の学生、研究者の交流を深めるための懇親会が行われ、別の角度からの熱い議論が交わされました。参加者の皆さんには分子科学の多様性ととともに、その基礎を支えている分子研の存在意義を感じ取って頂けたものと思います。これも周到な準備をされた講師の先生方のご尽力の賜物かと思えます。お忙しい中、ご協力いただきました講師の先生方にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。